

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成25年11月27日(水) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. アンジェ大学(フランス)と大学間交流協定を締結
2. 南東北3大学連携シンポジウム「東北の未来創りと大学の使命」を開催します
3. ウイルス類似機能を有する抗菌活性ナノ物質を発見
4. 日韓中の共同研究で全く新しい金属状態を発見
5. 公開シンポジウム「新生”モンテディオ山形”と地域づくり」を開催します

お 知 ら せ

1. 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナーの開催
2. 「“つばさ”プロジェクト」シンポジウムの開催

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成25年12月10日(火)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成25年11月27日

山形大学

アンジェ大学（フランス）と大学間交流協定を締結

11月18日（月）にアンジェ大学（フランス）を訪問し、同大学と学術交流及び学生交流に関する協定を締結しました。本学にとって、フランスでは初めての協定校になります。

このたび、結城学長らがフランスのアンジェ大学を訪れ、同大学と大学間交流協定を締結しました。

平成25年11月18日（月）にアンジェ大学で行われた調印式では、両大学関係者が見守る中で、結城学長とJean-Paul Saint-André アンジェ大学長が、学術交流及び学生交流に関する協定にサインしました。また、翌日の11月19日（火）には、アンジェ市長代理からアンジェ市が誇るタペストリーを展示しているジャン・リュルサ美術館でのレセプションに招待をいただき、歓待していただきました。

このたびの協定は、理学部地球環境学科リチャード・W・ジョルダン教授とアンジェ大学のFranciscus J. Jorissen教授との長年にわたる研究交流をベースに、理学部による提案の結果実現したものです。この協定締結を契機に、教職員の交流・共同研究を組織的により一層推進し、留学生の相互受入れ等学生間の交流も活発に行っていきたいと考えています。

<アンジェ大学概要>

- ・パリから南西に約300km離れたところに位置するアンジェ市にある公立大学。
- ・8つの学部・研究所で約20,000人の学生が学ぶ、歴史と伝統のある総合大学。
- ・1364年にチャールズ5世によって設立
- ・1807年ナポレオンにより医学部と薬学部が設立される
- ・1971年総合大学として現在の体制となり、特に理学系の教育・研究体制が充実していることで有名な大学。
- ・日本の大学では上智大学、長崎大学と協定を締結している。



調印式の様子

アンジェ大学理学部

(お問い合わせ)

理学部学部長補佐 教授 リチャード・W・ジョルダン

(TEL)023-628-4645

理学部国際交流委員会 教授 近藤 慎一

(TEL)023-628-4587

学術交流協定一覧

◆大学間交流協定◆

NO.	国・地域	機関名	英語表記	締結年月日
1	中国	吉林大学	Jilin University	平成16年8月20日
2	アメリカ	テキサス大学アーリントン校	The University of Texas at Arlington	平成17年6月27日
3	チリ	タルカ大学	The University of Talca	平成17年8月26日
4	アメリカ	NY州立大学コブススキル農業・技術大学	The State University of NY, College of Agriculture and aTechnology at Cbleskill	平成17年9月29日
5	ロシア	ブリヤート国立大学	Buryat State University	平成18年2月20日
6	中国	哈爾濱医科大学	Harbin Medical University	平成18年3月30日
7	中国	河北医科大学	Hebei Medical University	平成18年4月3日
8	韓国	仁済大学校	Inje University	平成18年5月16日
9	中国	河北联合大学	Hebei United University	平成18年10月20日
10	ラトビア	ラトビア大学	University of Latvia	平成18年10月26日
11	エストニア	タリン大学	Tallinn University	平成18年12月16日
12	韓国	大邱大学校	Daegu University	平成19年4月16日
13	台湾	銘傳大学	Ming Chuan University	平成19年6月29日
14	オーストラリア	チャールズ スタート大学	Charles Sturt University	平成19年12月13日
15	台湾	中山大学	Sun Yat-Sen University	平成20年1月11日
16	アメリカ	コロラド州立大学	Colorado State University	平成20年3月31日
17	ベトナム	ハノイ農業大学	Hanoi University of Agriculture	平成20年4月21日
18	ブルネイ	ブルネイダルサラーム大学	University of Brunei Darussalam	平成20年6月3日
19	韓国	忠北大学	Chungbuk National University	平成20年6月5日
20	スイス	ヨーロッパ原子核研究機構 (CERN)	European Organization for Nuclear Research	平成20年6月20日
21	ベトナム	ハノイ工科大学	Hanoi University of Science and Technology	平成20年8月4日
22	中国	哈爾濱工業大学	Harbin Institute of Technology	平成20年9月25日
23	ベトナム	ハノイ国家大学自然科学大学	Vietnam National University of Hanoi	平成20年10月7日
24	タイ	コンケン大学	Khon Kaen University	平成20年10月29日
25	アメリカ	オクラホマ大学	The University of Oklahoma	平成20年12月5日
26	中国	北京林業大学	Beijing Forestry University	平成21年2月25日
27	オランダ	ライデン大学	Leiden University	平成21年2月26日
28	チェコ	トーマスバタ大学	Tomas Bata University	平成21年2月26日
29	中国	青島農業大学	Qingdao Agricultural University	平成21年4月28日
30	ボリビア	サンアンドレス大学	Universidad Mayor de San Andres	平成21年7月3日
31	イギリス	マンチェスター大学人文科学学部	Faculty of Humanities, The University of Manchester	平成21年7月7日
32	韓国	全南大学校	Chonnam National University	平成22年3月31日
33	中国	福建師範大学	Fujian Normal University	平成22年5月1日
34	マレーシア	マラ工科大学	Universiti Teknologi MARA	平成22年6月2日
35	韓国	慶南科学技術大学	Gyeongnam National University of Science and Technology	平成22年9月28日
36	マレーシア	マレーシア工科大学	Universiti Teknologi Malaysia	平成22年12月28日
37	タイ	タイ国科学技術開発庁	Natinal Science and Technology Development Agency	平成23年1月6日
38	タイ	モンクット王ラカバン工科大学	King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang	平成23年1月7日
39	タンザニア	ダルエスサラーム大学	The University of Dar es Salaam	平成23年1月27日
40	ケニア	ジョモケニヤッタ農工大学	Jomo Kenyatta University of Agriculture and Technology	平成23年12月4日

平成25年11月27日
山形大学

南東北3大学連携シンポジウム「東北の未来創りと大学の使命」を開催します

南東北三国立大学(山形大学、宮城教育大学、福島大学)では、東日本大震災後の東北の復旧・復興を支援し、新しい東北を創り上げていくために、人的交流と教育の連携を深めてきました。これらの活動の現状と総括を広く社会に公表する場として、シンポジウムを開催します。

■ 背景

南東北三国立大学長は、平成23年12月15日に『大災害に際して地方国立大学がなすべきこと』を決意表明しました。

この決意表明以降、南東北三国立大学は、東北の復旧・復興を支援し、新しい東北を創り上げていくために、人的交流と教育の連携を深めてきました。

本シンポジウムでは、現在まで取組んできた東北の復旧・復興支援活動の成果を発表すると同時に、東北の未来創りに貢献する南東北三国立大学の使命について考えます。

■ シンポジウム概要

開催日時：12月8日(日) 13:30～16:30

開催場所：仙台市情報・産業プラザ(仙台駅前AER 6Fセミナールーム(2))

募集人員：100名 *入場無料

内 容：

基調講演「ソフトパワー大国をめざして～東北からの発信の可能性～」

結城 章夫《山形大学学長》

パネルディスカッション「東北の未来創りと大学の使命」

コーディネーター 野澤 令照《宮城教育大学特任教授》

パネラー 下平 裕之《山形大学教授》

小田 隆史《宮城教育大学特任准教授》

丹波 史紀《福島大学准教授》

小野木克之《河北新報株式会社社長室長》

針生 英一《仙台印刷工業団地協同組合理事長》

(お問合せ先)

山形大学渉外部渉外課 大学連携担当

Tel: 023-628-4842

Fax: 023-628-4820

E-mail: dairen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

東北の未来創りと大学の使命

山形大学、福島大学及び宮城教育大学は南東北大学連携研究会を平成23年度に設立し、災害復興学という新しい分野の確立を目指した災害復興学推進事業を実施しています。今年、南東北三大学連携研究会が活動を開始して3年目に当たり、これらの活動の現状と総括を広く社会に公表する場として、今回のシンポジウムを開催することにいたしました。本シンポジウムでは、現在まで取組んできた東北の復旧・復興支援活動の成果を発表すると同時に、東北の未来創りに貢献する南東北三国立大学の使命について考えます。

開催日時

平成25年 **12月8日(日)** 13:30 ~ 16:30

開催場所

仙台市情報・産業プラザ (AER) 6F セミナールーム(2)

募集人員

100名

応募方法

シンポジウム申込書をご記入のうえ、11月29日(金)までに FAX またはメールでお申し込みください。

< 講座内容 >

13:30 ~ 13:35 開会あいさつ 見上 幸 <宮城教育大学学長>

13:35 ~ 14:35 基調講演
「ソフトパワー大国をめざして～東北からの発信の可能性～」
結城章夫 <山形大学学長>

14:35 ~ 14:45 休憩

14:45 ~ 16:25 パネルディスカッション「東北の未来創りと大学の使命」
コーディネーター：野澤 令 照 <宮城教育大学特任教授／教育復興支援センター>
パネラー：下平 裕 之 <山形大学教授／人文学部>
小田 隆 史 <宮城教育大学特任准教授／教育復興支援センター>
丹波 史 紀 <福島大学准教授／行政政策学類>
小野木 克 之 <河北新報株式会社社長室長>
針生 英 一 <仙台印刷工業団地協同組合理事長>

16:25 ~ 16:30 閉会挨拶 入戸野 修 <福島大学学長>

問い合わせ先・申し込み先

宮城教育大学総務課総務係

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149番地

TEL 022-214-3417

FAX 022-214-3309

E-mail shomu@adm.miyakyo-u.ac.jp



主催：宮城教育大学・宮城教育大学教育復興支援センター

共催：山形大学・福島大学

南東北3大学連携シンポジウム
 東北の未来創りと大学の使命
参加申込書

* 必要事項をご記入の上宮城教育大学総務課総務係へ FAX または E-mail でお送りください。

E-mail: shomu @ adm.miyakyo-u.ac.jp

(ふりがな) 氏 名	()	性 別	男 ・ 女	
年 齢	<input type="checkbox"/> 20歳未満 <input type="checkbox"/> 20歳代 <input type="checkbox"/> 30歳代 <input type="checkbox"/> 40歳代 <input type="checkbox"/> 50歳代 <input type="checkbox"/> 60歳代 <input type="checkbox"/> 70歳以上 ・ 該当する箇所にチェック願います。			
連 絡 先	<input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> その他() ・ 該当する箇所にチェック願います。			
	住所 〒			
	自宅以外の場合連絡先機関名			
	TEL () -		FAX () -	
	E-mail :			

* 個人情報の保護

お申し込みの際にお知らせいただく住所等の個人情報は、宮城教育大学において適切に管理し、シンポジウムを実施するための手続きにのみ使用させていただきます。

【おしらせ】

南東北3大学連携「災害復興学」市民講座は、別日程で宮城会場、山形会場、福島会場において開催されます。講座内容、申し込み方法等は各大学 HP などでご確認ください。

平成25年11月27日
山形大学

ウイルス類似機能を有する抗菌活性ナノ物質を発見

これまでに知られている抗菌ペプチドや抗菌ナノ粒子が示す抗菌活性機構とは異なり、ある種のウイルスに類似した機能を有する抗菌活性ナノ物質を発見しました。本物質は、細菌が有する細胞膜の組成に強く依存した抗菌活性を示すことが予想されるため、細胞膜選択的薬剤などへの応用が期待されます。

研究成果の概要

山形大学理学部の並河英紀准教授の研究グループは、抗菌ペプチドなどとは異なる原理で機能する新しい抗菌活性ナノ物質を発見しました。この物質はポリオキシメタレート(POM)と呼ばれる直径1 nm程度の非常に小さなナノ材料です。脂質分子から構成されるモデル細胞に対する活性評価を行った結果、POMを添加することでモデル細胞がわずか数秒～数十秒で分解され特殊な構造へ転移することが明らかとなりました。この現象は、抗菌物質として知られるペプチドやナノ粒子の反応経路とは異なり、HIVやインフルエンザウイルスが細胞と相互作用する際のプロセスの一部に類似していることが明らかとなりました。今後は、特定の細胞群に対し選択的作用する細胞選択的人工ナノ薬剤等への応用も視野に入れ、研究を進めていく予定です。

論文発表の概要

研究論文名：Activity of Keggin and Dawson polyoxometalates toward model cell membrane

(モデル細胞膜に対するポリオキシメタレートの活性)

著者：Hideki Nabika, Yusuke Inomata, Erisa Itoh, Kei Unoura

公表雑誌：RSC Advances (英国王立化学協会論文誌), 3(44), 21271-21274 (2013).

公表日：2013.09.24 (オンライン公表日)

お問い合わせ先

山形大学理学部 准教授 並河 英紀 (なびか ひでき)

TEL&FAX: 023-628-4589

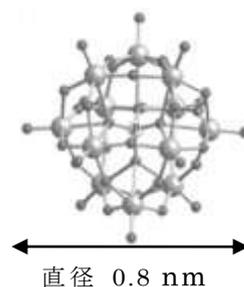
E-mail: nabika@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

URL : <http://www-kschem0.kj.yamagata-u.ac.jp/~nabika/index.html>

追加説明資料

(背景)

90兆円に迫る世界市場規模を有する医薬・新薬創成産業においてもナノテクノロジーが注目されています。我々はアルツハイマー病や発がん活性を抑制するナノ物質・ポリオキシメタレート（POM、右図）に着目し、細胞への活性を研究してきました。その結果、POMが非常に効率的に細胞膜を崩壊し、その発現機構がウイルスと細胞膜の相互作用に類似していることを突き止めました。



(研究成果)

POMとモデル細胞膜との相互作用解析や構造解析を行った結果、POMは迅速に細胞膜へ吸着し、その後、POMが膜構成分子である脂質分子を奪いながら細胞膜から脱離することを突き止めました。この時、細胞膜から奪い取った脂質分子は、POM自身の身を守るためのマントの役割をしています。細胞から脂質分子を奪いマントとして利用する現象は、HIVやインフルエンザといったエンベロープウイルスに特有の機構であり、POMはこれらウイルスと似た機構で細胞膜へ作用していることが明らかとなりました。POMの細胞膜への吸着と脂質分子を奪いながらの脱離が細胞膜上の多点で多発的に発生することで、細胞膜構造が不安定化され崩壊します。これがPOMによる抗菌活性の発現原理と考えられます。吸着 - 脱離のプロセス効率は細胞の膜組成に依存する為、POMによる細胞膜崩壊機能は、高い細胞選択性を有するものと予想されます。



(今後への期待)

POMには組成・電荷・構造の異なるものが多数存在し、また、細胞膜も細胞によって組成・流動性・電荷が異なり、その組み合わせが今回発見した細胞膜崩壊効率を支配します。今後は「どの様なPOMがどの様な組成を有する細胞を選択的に崩壊するのか」に対する指針を探していきます。これは細胞選択的治療へ向けたターゲティング薬剤としての応用を想定したものであり、人工ナノ薬剤の新奇基軸化合物としてのPOMの可能性を探求していきます。

平成25年11月27日
山形大学

日韓中の共同研究で全く新しい金属状態を発見

山形大学理学部量子物性研究室は、韓国の2大学と中国の強磁場研究所との共同研究で、磁場中の3次元Dirac電子系で全く新しい金属状態を発見しました。

◎背景

- ◇理学部物理学科量子物性研究室（佐々木実教授、大西彰正教授、北浦守准教授）では、トポロジカル絶縁体である Bi_2Te_3 表面に存在する2次元Dirac電子の特異な振舞いを解明し、その研究成果をPhysical Review B誌に発表しています。
- ◇量子物性研究室が中核となり、韓国のDaegu大学とPohang工科大学・佐賀大学シンクロトロン光応用研究センター（SLC）・中国国立Wuhan強磁場研究所（WNHMFC）との共同研究で、非常に安定なDirac電子系となり得る鉄（Fe）元素をドーブした磁性トポロジカル絶縁体 $\text{Fe}_x\text{Bi}_2\text{Te}_3$ （ドーブしたFe濃度は最大10%）単結晶の電氣的・磁氣的特性を詳細に調べました。その成果は物理学分野では極めて評価の高いPhysical Review Letters（PRL）誌に掲載されました。
- ◇一連の共同研究では、大学間交流協定校のDaegu大学の金教授の功績が極めて大であり、Daegu大学との交流は、学生の交流にとどまらず、研究交流も活発になってきたと言えます。

◎発見の概要

- ◇このたび、3次元Dirac電子系である3%SbをドーブしたBiSb系で、Dirac電子の状態が磁場中でWeyl金属という全く新しい金属状態になることを見出しました。Weyl金属はその存在が予想されていましたが、実験的に見つかったのは今回が初めてです。
- ◇基礎データは山形大学で既に得ていました。この結果を踏まえ、中国国立Wuhan強磁場研究所で強磁場実験を行って、さらなる重要な結果を得ました。それに基づいて、韓国のDaegu大学の金教授とPohang工科大学の金教授による理論研究で、3次元Dirac電子系が磁場中でWeyl金属になることを世界で初めて証明しました。

（お問い合わせ）

山形大学理学部物理学科 教授 佐々木 実
TEL : 023-628-4564



山形大学

日韓中の共同研究で全く新しい金属状態を発見



韓国Daegu大学

山形大学理学部量子物性研究室



研究成果について

- 山形大学・韓国Daegu大学およびPohang工科大学 中国Wuhan強磁場研究所
・中国Wuhan強磁場研究所の共同研究の成果です。
- 3次元ディラック電子系が磁場中でワイル金属になることを世界で初めて発見しました。
- その元となる実験結果は山形大学で測定し、さらに強い磁場での実験をWuhan強磁場研究所で行いました。
- 強磁場実験結果は、Wuhan強磁場研究所の施設の性能を証明しています。
- 理論的研究は、Daegu大学の金教授とPohang工科大学の金教授によるものです。

研究の意義

- Physical Review Letters (PRL) 誌は物理分野では最高レベルの欧文誌です。
- 私たち量子物性研究室は、年間2報の論文をPRLに掲載あるいは掲載可（下記は論文の一部）とし、山形大学および理学部に大いに貢献しています。
- 共同研究成果は、Wuhan強磁場研究所の発展に大いに貢献しました（下記は研究所長の李教授からの感謝のメールです）。

Dirac vs. Weyl fermions in topological insulators:
Adler-Bell-Jackiw anomaly in transport phenomena

H.-J. Kim¹, K.-S. Kim², J.-F. Wang⁴, M. Sasaki⁵, N. Satoh⁶, A. Ohnishi⁵, M. Kitaura⁵, M. Yang⁴, L. Li⁴

¹Department of Physics, College of Natural Science, Daegu University, Korea

²Department of Physics, Pohang University of Science and Technology (POSTECH), Pohang, Korea

⁴Wuhan National High Magnetic Field Center, Huazhong University of Science and Technology, Wuhan, China

⁵Department of Physics, Faculty of Science, Yamagata University, Japan

掲載可となった論文の1ページ目

Dear Prof. Minoru Sasaki:

I am so happy to know that our collaboration work has been accepted to be published by the PRL, especially this time with the measurement done with our pulsed field facility. I wish that we keep on this collaboration and have more such publications.

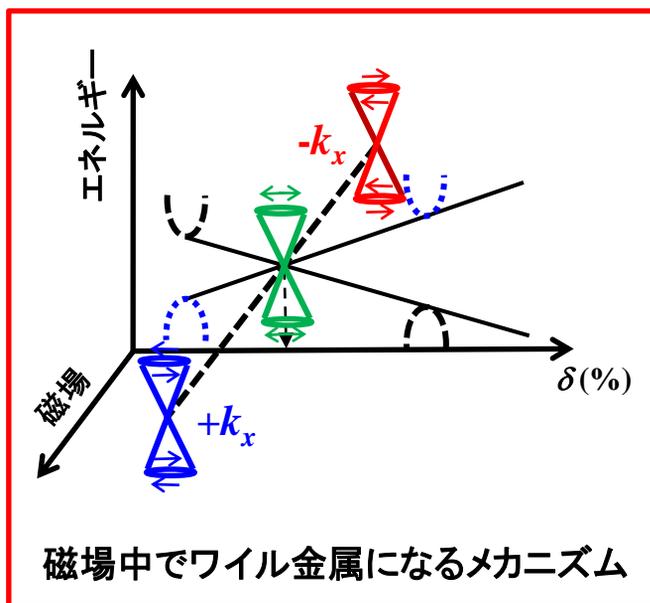
Congratulations !

Liang

Wuhan強磁場研究所の李所長からのメール

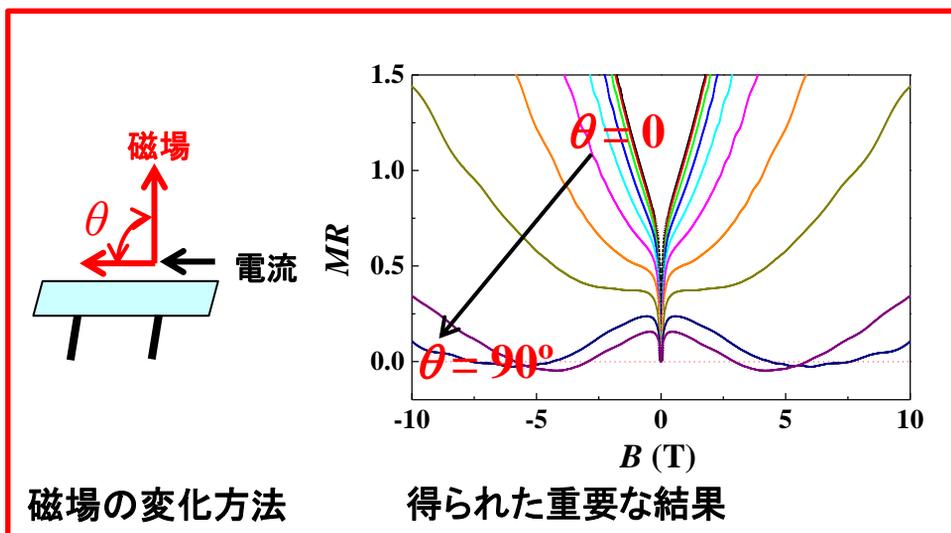
提唱した機構

- 磁場をかけない場合、3次元のディラック電子系(緑のコーン状の状態)が実現しています。
- 磁場をかけると、この状態が二つの状態に分裂(赤と青のコーン状の状態)します。これがワイル金属状態です。
- その場合、磁場中の抵抗やホール効果といった輸送現象に異常が現れます。



主な研究結果

- 磁場を電流に垂直にかけると、弱磁場で先鋭な磁気抵抗MR(磁場中で抵抗が変化する現象)が現れます(下の右図)。
- 磁場の方向を電流方向に傾けていくと(下の左図)、磁気抵抗の振舞いが急激に変化していきます。磁場を電流方向に揃えた場合のみ、抵抗自体が小さくなる現象が現れます(下の右図)。
- この現象こそがディラック電子系がワイル金属になった証拠です。また、ホール効果にも異常が現れます。



私たち研究室は、支援して下さっている山形大学・理学部・岩田高広教授・富田憲一教授に大変感謝しています。また、佐々木実は、いろいろな意味でよきライバルである衛藤稔准教授にも感謝しています。

平成25年11月27日
山形大学

プロスポーツ大学間連携人材育成等推進事業

公開シンポジウム「新生“モンテディオ山形”と地域づくり」を開催します

大学コンソーシアムやまがたでは、今年度山形県から委託を受けた「プロスポーツ大学間連携人材育成等推進事業※」の一環として、12月21日（土）に公開シンポジウム「新生“モンテディオ山形”と地域づくり」を開催します。

1. 目的

モンテディオ山形は、来季、2014年シーズンから、これまでの公益社団法人による運営から株式会社方式に生まれ変わる節目の時期を迎えています。

いま、モンテディオ山形と共に、私たちはどのような山形の未来を切り開いていくのかを考えます。

2. 日時・会場

〔日時〕平成25年12月21日（土） 13:30-16:30（13:00受付開始）

〔会場〕山形国際ホテル 6階「スプレnder」（山形市香澄町3-4-5）

3. プログラム

① 基調講演

「新生“モンテディオ山形”を地域活性化の起爆剤に」

株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長 高橋 節 氏

「新生“モンテディオ山形”が地域にもたらす効果」

山形大学人文学部 教授 下平 裕之 氏

② パネルディスカッション

「モンテディオ山形を軸とした地域づくり」

③ モンテディオ山形応援看板授賞式

山形駅前大通り商店街「株式会社中合 十字屋山形店」の店舗ビル東側壁面を飾る、モンテディオ山形応援看板を公募。シンポジウム参加者約100名による投票を即時集計の上、選考作品（受賞者）を決定し、表彰式を行います。受賞作品は、平成26年2月から1年間掲示される予定。

※プロスポーツ大学間連携人材育成等推進事業：

県内大学間の連携により、様々な地域課題に対して果敢に取り組む人材の育成を図ると共に、本県の地域資源であるプロスポーツと若者（大学生）の行動力や柔軟な発想を活かし、地域おこし活動などを展開することで活力に満ちた地域社会の実現を目指すために、山形県より委託された事業

（お問合せ先）
大学コンソーシアムやまがた事務局
鈴木・松田
電話 023-628-4842

Montedio YAMAGATA

新生

“モンテディオ山形”と 地域づくり

参加無料

©SPORTS YAMAGATA 21

日時

平成25年12月21日(土)
13:30-16:30 (13:00受付開始)

会場

山形国際ホテル
6階「スプランダー」
(山形市香澄町3-4-5)



◆対象：一般の方

◆定員：100名 (定員になり次第締切)



基調講演

「新生“モンテディオ山形”を地域活性化の起爆剤に」

…………… 講師：株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長

高橋 節 氏

「新生“モンテディオ山形”が地域にもたらす効果」

…………… 講師：山形大学人文学部 教授

下平 裕之 氏

パネル
ディスカッション

「モンテディオ山形を軸とした地域づくり」

◎ファシリテーター

山形大学人文学部 教授

立松 潔 氏

◎パネリスト

東北文教大学短期大学部 准教授

土居 洋平 氏

株式会社フィデア総合研究所 主事研究員

齋藤 信也 氏

山形県サッカー協会 常務理事 (Jリーグ・マッチコミッショナー)

桂木 聖彦 氏

株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター研究員

青木 理恵 氏

モンテディオ山形サポーター (東北文教大学短期大学部 総合文化学科)

武田 安加 氏

■主催：大学コンソーシアムやまがた ■共催：山形県、公益社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会

お申込先・
お問合せ先

大学コンソーシアムやまがた

ゆうキャンパスで検索、

〒990-0039 山形市香澄町1丁目3番15号山形むらさきさわビル1階

TEL 023-628-4842 FAX 023-628-4820 E-mail unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

地域づくり 新生“モンテディオ山形”



日時 平成25年12月21日(土)
13:30-16:30 (13:00受付開始)

会場 山形国際ホテル 6階「スプランダー」
(山形市香澄町3-4-5)

◎目的

モンテディオ山形は、平成11年(1999年)のJリーグ参戦時から、県民チームとして生まれ、親しまれ、さらに県内外のサポーターと県民の交流を生み、地域活性化に大きく貢献してきた。

一方、県内高等教育機関の連合体である大学コンソーシアムやまがたでは、山形の重要な地域資源であるプロスポーツとの協力・活用により、新たな地域活性化、地域おこし、街づくり等の活動を行うことで活力に満ちた地域社会の実現を推進している。

モンテディオ山形は、来季、2014年シーズンから、これまでの公益社団法人による運営から株式会社方式に生まれ変わる節目の時期を迎えている。

いま、モンテディオ山形と共に、私たちはどのような山形の未来を切り拓いていくのかを考えていきたい。

◎プログラム

◆受付 13:00

◆開会 13:30-13:45

主催者挨拶 大学コンソーシアムやまがた 会長/山形大学 学長 結城 章夫
チアパフォーマンス(山形大学チアダンスサークル“Cherries”)

◆基調講演 13:45-14:35

「新生“モンテディオ山形”を地域活性化の起爆剤に」

講師：株式会社モンテディオ山形 代表取締役社長

高橋 節 氏

「新生“モンテディオ山形”が地域にもたらす効果」

講師：山形大学人文学部 教授

下平 裕之 氏

◆休憩 14:35-14:45

◆パネルディスカッション 14:45-16:15

「モンテディオ山形を軸とした地域づくり」

◇ファシリテーター 山形大学人文学部 教授

立松 潔 氏

◇パネリスト 東北文教大学短期大学部 准教授

土居 洋平 氏

株式会社フィデア総合研究所 主事研究員

齋藤 信也 氏

山形県サッカー協会 常務理事(Jリーグ・マッチコミッション)

桂木 聖彦 氏

株式会社リクルートライフスタイル じゃらんリサーチセンター研究員

青木 理恵 氏

モンテディオ山形サポーター(東北文教大学短期大学部 総合文化学科)

武田 安加 氏

◆モンテディオ山形応援看板授賞式(公募作品選考発表) 16:15-16:25

◆閉会 16:25

◎参加申し込み方法 氏名、所属、住所、電話番号、E-mailアドレスを明記し、FAXまたはE-mailでお申し込み下さい。

FAX 023-628-4820 **E-mail unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp**

申込期限/平成25年12月18日(水) 定員/100名(定員になり次第締切)

お申込先・
お問合せ先

大学コンソーシアムやまがた

〒990-0039 山形市香澄町1丁目3番15号山形むらさきさわビル1階

TEL 023-628-4842 FAX 023-628-4820 E-mail unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

参加申込書	[氏名]	[所属機関(部局)]
	[住所]	[電話番号]
	[E-mail]	

平成25年11月27日
山形大学

1. 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナーの開催

我が国では、少子・高齢化が進み、少子化対策に真剣に取り組む必要がでてきています。少子化対策の切り札のひとつに生殖医療がありますが、最近この分野では「卵子の老化」が重要な研究対象となっており、社会的にも関心が高まってきました。そこで、山形大学先進的研究拠点（YU-COE）の一つとして、本学で重点支援をしている「山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点」は、畜産分野と医療の臨床の研究の最先端で活躍されている2人の先生をお招きして、先端研究や、畜産や臨床の実際についてご講演をいただきます。男性、女性を問わず、これから子どもをもつ人、子育て中の人、医者や看護師を目指す学生など多くの人に、自分自身に関わることとして受け止めていただき、聴講していただくための企画です。参加される皆様と、「卵子の老化」が抱える問題点を共有したいと考えています。

◆日時：12月14日（土）14:00～16:30

◆場所：山形大学理学部先端科学実験棟4階 S401 大講義室

◆内容：特別講演1「卵子発生の基礎研究と生殖技術への応用」

独立行政法人家畜改良センター 佐藤 英明 理事長

特別講演2「生殖補助医療の現状と少子化対策・妊活」

国立成育医療研究センター、周産期・母性診療センター、

副周産期・母性診療センター 齊藤 英和 センター長

◆対象：一般の方 ※参加費無料・事前申し込み不要

【詳細は別添の資料をご覧ください。】

2. 「“つばさ”プロジェクト」シンポジウムの開催

平成24年度に文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」の採択を受けたプログラム『東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築』のプロジェクトシンポジウムを開催します。

本プログラムでは、東日本の19の大学等と14の地方自治体等が連携してプログラムを推進し、学生の主体的な学び・教育の質保証などを支援するために、様々な事業を展開しています。今回は、東日本広域「FDネットワーク“つばさ”」の冒険～大学と地域の連携による『大地連携ワークショップ』を中心としてをテーマに、意見交換を行います。

◆日時：平成26年1月25日（土）13:00～16:30

◆会場：キャンパス・イノベーションセンター東京 1階 国際会議室
（東京都港区芝浦3-3-6）

◆内容：

[基調講演] 『“つばさ”プロジェクトの現在進行形』

山形大学地域教育文化学部 小田 隆治教授

(“つばさ”プロジェクト運営協議会 委員長)

[話題提供とパネルディスカッション]

- | | | | |
|--------------|-----|---------|---------|
| ・日本女子大学 | 准教授 | くとう 久東 | みつよ 光代 |
| ・東京造形大学 | 教授 | こしむら 越村 | いさお 勲 |
| ・北海道平取町役場 | 主幹 | きのした 木下 | まさと 正人 |
| ・山形大学 | 准教授 | すぎはら 杉原 | まさあき 真晃 |
| ・山形県金山町教育委員会 | 主事 | ぬまざわ 沼澤 | なおふみ 尚史 |

【詳細は別添の資料をご覧ください。】

※ これまでの学長定例会見でお知らせをしたもので、開催がせまっているイベント

〔詳細は別添の資料をご覧ください〕

◎山形県民シンポジウム in 庄内「やまがたの人づくりと教育を考える」を開催

山形大学は、山形県教育委員会と東北公益文科大学との共催で、山形県民シンポジウム in 庄内「やまがたの人づくりと教育を考える」を酒田市で開催します。

◆日時：11月30日(土) 13:00-15:50(12:30受付開始)

◆会場：公益ホール(酒田市公益研究センター多目的ホール)

東北公益文科大学酒田キャンパス内

◆内容：

第一部 基調講演

「山形から新しい国づくり人づくり～これから大切になる教育～」山形大学長 結城 章夫

第二部 パネルディスカッション

「国づくり人づくりに果たす教育の役割」コーディネーター 山形大学副学長 安田 弘法
パネリスト 6名

◎附属博物館公開シンポジウム「山形の古文書を未来に伝承するために」の開催

文化庁の平成25年度「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」に採択された「山形の古文書を未来へ伝承するプロジェクト」の一環としてシンポジウムを開催します。古文書を未来へ伝承するための現状と課題、求められている保存・管理術などについて考えていきます。

◆日時：11月30日(土) 10:00~12:15

◆場所：山形大学小白川キャンパス 基盤教育2号館 221教室

※参加費無料・事前申し込み不要

— 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナー —

いま知って欲しい卵子の一生

～卵子もあなたとともに老化する～

我が国では、少子・高齢化が進み、少子化対策に真剣に取り組む必要ができています。今回は少子化対策の切り札の一つとされる生殖医療分野の研究をテーマに取り上げました。最近、社会的にも関心が高まっている「卵子の老化」に関して、卵子の基礎研究から畜産分野での応用、医療における臨床研究について最先端のご研究されている先生に分かりやすくお話していただきます。どなたでも参加できるセミナーになっておりますので、是非足をお運びください。



日時 平成25年**12月14日(土)** 14:00～16:30

会場 **山形大学理学部 先端科学実験棟大講義室 (S401室)**

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 Tel/Fax: 023-628-4502/4510

特別講演1

卵子発生の基礎研究と 生殖技術への応用

独立行政法人家畜改良センター理事長 **佐藤 英明 先生**

【プロフィール】1971年に京都大学農学部を卒業後、同大学助手、助教授を経て、1992年に東京大学医科学研究所助教授、1997年に東北大学大学院農学研究科教授、2008年に東北大学ディスティングイッシュトプロフェッサー、2013年より現職。2005年日本農学賞・読売農学賞受賞、2009年紫綬褒章受章、2013年日本学士院賞受賞。

特別講演2

生殖補助医療の現状と 少子化対策・妊活

国立成育医療研究センター、周産期・母性診療センター、
副周産期・母性診療センター長 **齊藤 英和 先生**

【プロフィール】1979年に山形大学医学部を卒業後、山形大学医学部産科婦人科講座の助手、講師、助教授を経て、2002年より現職。1981～1982年には、アメリカ南カリフォルニア大学Research Fellowとして留学。著書に「妊活バイブル 晩婚・少子化時代に生きる女のライフプランニング」(講談社、2012年)。

齊藤英和先生の著書▶



主催 YU-COE(山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点) 山形大学工学部バイオ化学工学科

本特別講演は、平成25年度YU-COE「高度生殖テクノロジーイノベーション拠点」、テニユアトラック普及・定着事業(社会的知性を備えた卓越した若手育成)から支援を受けて実施しています。

お問い合わせ先

TEL 023-628-4619 FAX 023-628-4625 E-mail watan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp

山形大学理学部生物学科生殖生物学研究室 渡邊 明彦 まで

※この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

— 山形大学高度生殖テクノロジーイノベーション拠点特別セミナー —

いま知って欲しい卵子の一生

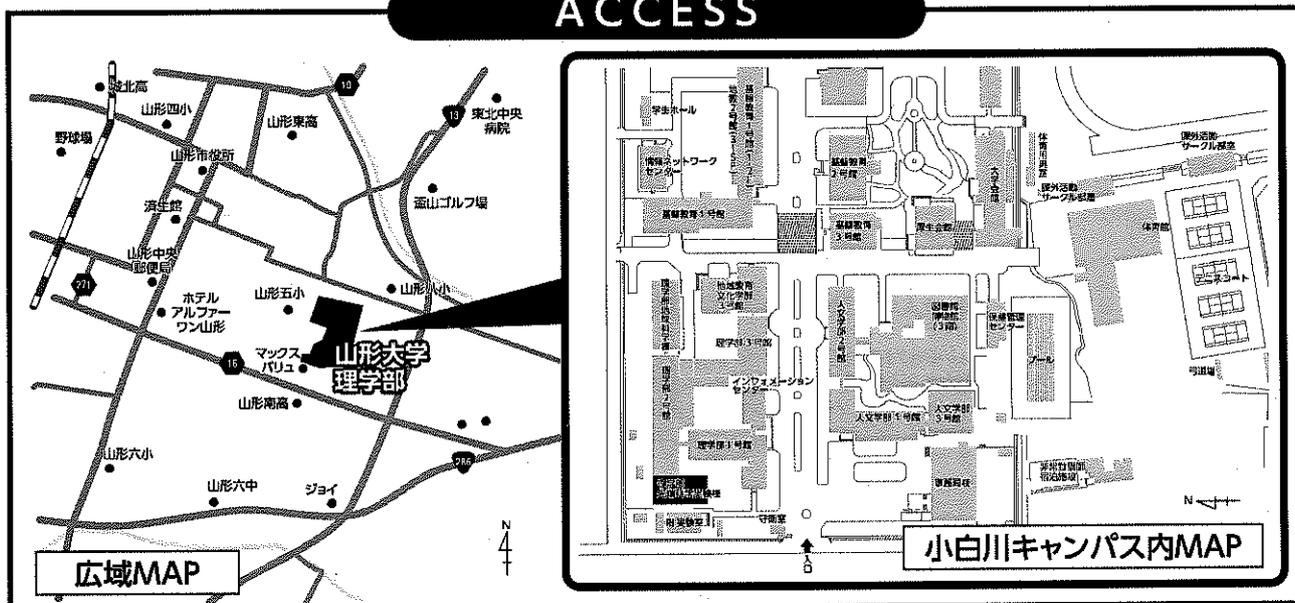
～卵子もあなたとともに老化する～

日時 平成25年**12月14日(土)**
14:00～16:30

会場 山形大学理学部
先端科学実験棟大講義室 (S401室)

参加費
無料!

ACCESS



当日参加歓迎します!!

お問い合わせ先

山形大学理学部生物学科生殖生物学研究室 担当: 渡邊 明彦

TEL 023-628-4619 FAX 023-628-4625

E-mail / watan@sci.kj.yamagata-u.ac.jp



FD NETWORK TSUBASA PROJECT
Innovation on Higher Education in East Japan

文部科学省 平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」採択事業

「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」プロジェクト

シンポジウム

東日本広域「FDネットワーク“つばさ”」の冒険

— 大学と地域の連携による『大地連携ワークショップ』を中心として —

日時

平成26年 **1月25日(土)** 13:00~16:30
(受付12:30~)

会場

キャンパス・イノベーションセンター東京
1階 国際会議室 (東京都港区芝浦3-3-6)

第1部 基調講演

●「“つばさ”プロジェクトの現在進行形」

“つばさ”プロジェクト 運営協議会委員長 山形大学教育開発連携支援センター
(山形大学地域教育文化学部 副学部長) 小田 隆治 教授

第2部 大学と地域の連携による『大地連携ワークショップ』を目指して

●「地域連携活動およびプロジェクト型演習の理想と現実」

日本女子大学 人間社会学部 久東 光代 准教授

●「アイヌの着物を織り、地域の暮らしを体感する」

~芸術系大学のプロジェクト型授業と地域連携活動(仮)~ 東京造形大学 FD委員会委員長 越村 勲 教授

●「“つばさ”プロジェクト大地連携ワークショップ in 北海道に向けて」

~東京造形大学のワークショップから学ぶ~ 北海道平取町役場 アイヌ施策推進課 主幹 木下 正人 氏

●「“つばさ”プロジェクト大地連携ワークショップ in 山形の1年目」

山形大学 基盤教育院 杉原 真晃 准教授

●「“つばさ”プロジェクト「きりり金山再発見!」フィールドワークを終えたその後の展開について」

山形県金山町教育委員会 教学課社会教育係 主事 沼澤 尚史 氏



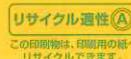
連携校・連携機関

北海道 / 【連携校】札幌大学、北翔大学、札幌大学女子短期大学部、北翔大学短期大学部 【連携機関】北海道教育委員会、釧路市、平取町、NPO法人阿寒観光協会まちづくり推進機構
東北 / 【連携校】山形大学、会津大学、青森中央学院大学、石巻専修大学、東北芸術工科大学、東日本国際大学、青森中央短期大学、羽陽学園短期大学、いわき短期大学
【連携機関】新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村 (山形県)
関東 / 【連携校】明海大学、国際武道大学、了徳寺大学、東京家政学院大学、東京造形大学、日本女子大学 【連携機関】川崎市、相模原市 (神奈川県)

FDネットワーク“つばさ”プロジェクト

お問合せ先

FDネットワーク“つばさ”プロジェクト代表校 山形大学教育開発連携支援センター
〒990-8560 山形市小白川町1-4-12 TEL:023-628-4480 FAX:023-628-4720
E-mail:k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp



「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」プロジェクト シンポジウム

東日本広域「FDネットワーク“つばさ”」の冒険

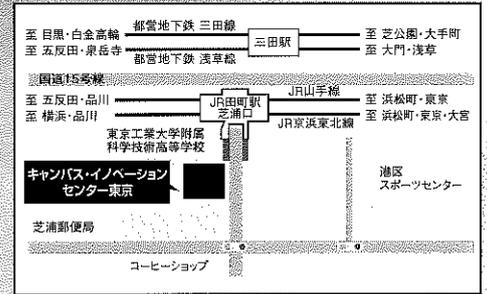
大学と地域の連携による大地連携ワークショップを中心として

日時

平成26年 **1月25日(土)** 13:00~16:30
(受付12:30~)

会場

キャンパス・イノベーションセンター東京
1階 国際会議室 (東京都港区芝浦3-3-6)



【趣 旨】

“つばさ”プロジェクト 運営協議会委員長 小田 隆治

文部科学省の平成24年度「大学間連携共同教育推進事業」に、「FDネットワーク“つばさ”」のプロジェクト「東日本広域の大学間連携による教育の質保証・向上システムの構築」(通称、“つばさ”プロジェクト)が採択されました。本プロジェクトは、北海道から関東までの19の大学等と14の自治体等が参加しています。本プロジェクトは、学生の自己学習力と社会人基礎力の育成を目的とし、大学間連携FD/SD/IRによって教育改善を進め、学生主体型授業やフィールドワークを地域の人たちと一緒に推進していく取組です。

本プロジェクトも2年目に入り、アクセルを踏み込みながら加速している段階です。本シンポジウムでは、今年度の大学と地域が連携した現地体験宿泊型学習の「大地連携ワークショップ」を中心に今年度の我々の活動をご報告し、大学間連携と大地連携(大学と地域の連携)のあり方について話を深めていきたいと考えています。

本シンポジウムは、第一部の基調講演で今年度の“つばさ”プロジェクトの活動の概要をお話します。第二部のパネルディスカッションでは、地域と連携した特色ある活動について日本女子大学から、北海道の平取町で実施した大学院生版の「大地連携ワークショップ」の模様を東京造形大学と平取町の担当者から、そして今年の夏に山形県金山町で8大学22名の学生が参加して3泊4日で実施した「大地連携ワークショップ」の模様を山形大学と金山町の担当者からそれぞれ話題提供をいただき、その後、フロアのみなさまと情報交換をしていきます。

本シンポジウムの特色は、「大地連携ワークショップ」を実際に担当された自治体の方の生の意見を聞けることにあります。我々のプロジェクトの特徴は、自治体の方が単なるステークホルダーではなく、一緒にプロジェクトを遂行する当事者になってくださっていることにあります。

大学間連携・大地連携・現地体験型学習・サービスラーニング・地域活性化等にご興味のあるみなさまのご参加をお待ちしております。

司会/山形大学 理学部 栗山 恭直 教授

開会の挨拶

13:00~13:10

山形大学 結城 章夫 学長 (予定)

第1部 基調講演

13:10~13:40

「“つばさ”プロジェクトの現在進行形」

“つばさ”プロジェクト 運営協議会委員長
山形大学教育開発連携支援センター(山形大学地域教育文化学部 副学部長) 小田 隆治 教授

第2部 大学と地域の連携による「大地連携ワークショップ」を目指して

13:40~16:30

【話題提供】

「地域連携活動およびプロジェクト型演習の理想と現実」

日本女子大学 人間社会学部 久東 光代 准教授

「アイヌの着物を織り、地域の暮らしを体感する」

～芸術系大学のプロジェクト型授業と地域連携活動(仮)～
東京造形大学 FD委員会委員長 越村 勲 教授

「“つばさ”プロジェクト大地連携ワークショップ in 北海道に向けて」
～東京造形大学のワークショップから学ぶ～

北海道平取町役場 アイヌ施策推進課 主幹 木下 正人 氏

「“つばさ”プロジェクト大地連携ワークショップ in 山形の1年目」

山形大学 基盤教育院 杉原 真晃 准教授

「“つばさ”プロジェクト「きらり金山再発見!」

フィールドワークを終えたその後の展開について」
山形県金山町教育委員会 教学課社会教育係 主事 沼澤 尚史 氏

【パネルディスカッション】

座 長/山形大学 基盤教育院

千代 勝実 教授

パネリスト/東京造形大学 FD委員会委員長

越村 勲 教授

日本女子大学 人間社会学部

久東 光代 准教授

山形大学 基盤教育院

杉原 真晃 准教授

北海道平取町役場 アイヌ施策推進課 主幹

木下 正人 氏

山形県金山町教育委員会 教学課社会教育係 主事

沼澤 尚史 氏

閉会

16:30

情報交換会(4,000円)

※近隣会場にて行います 17:00~19:00

<参加申込み方法>

申込み期限/平成26年1月15日(水)

氏名、所属機関(部局)、住所、電話番号、E-mailアドレス、情報交換会(会費4,000円)への参加の有無を明記し、下記のいずれかの方法でお申込みください。



023-628-4720



k3cen@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形県民シンポジウムin庄内
～「やまがた教育の日」関連事業～

やまがたの 人づくりと教育 を考える

平成25年

11月30日(土)

13:00～15:50(12:30受付開始)

会場

公益ホール (酒田市公益研修センター多目的ホール)

[東北公益文科大学酒田キャンパス内]

山形県酒田市飯森山三丁目5番地の1 TEL:0234-41-1111

参加費
無料

地域が求める人材は地域で育てる

「教育は国の礎。人づくりは、国づくり」。これは、今まで、今も、これからも変わらない大切な教えです。東日本大震災からの復興や日本及び地域の活性化には、人づくりは欠かせません。

11月は「やまがた教育月間」です。この教育月間にちなみ山形県民シンポジウムを企画し、教育について山形県民のみなさんと一緒に考えたいと思います。特に、県民一人ひとりのみなさんが、教育に対する関心と理解を深め、若い人々が地域の精神文化や風土を学び、地域活動等を通して、地域への愛着と郷土愛を育んでいただければ嬉しく思います。

ここでは、「山形から新しい国づくり人づくり」をテーマに、今までの、今の、これからの教育等について話題を提供していただきます。そして、国づくり人づくりに果たす教育の役割について多くの県民のみなさんと一緒に考え、これからの国づくり人づくりについて意見を交換したいと思います。

「やまがた教育月間」11月

「やまがた教育の日」11月第2土曜日

プログラム

司会：佐藤名月 (山形大学農学部3年)

13:00	シンポジウム開会 合唱 山形県民の歌「最上川」他(酒田東高等学校音楽部等)
13:10	挨拶 山形大学長 結城章夫 東北公益文科大学長 町田睿 県教育委員会教育長 菅野滋
第一部 基調講演	
13:20	〈演題〉「山形から新しい国づくり人づくり ～これから大切になる教育～」 山形大学長 結城章夫
14:20	休憩
第二部 パネルディスカッション	
14:30	テーマ「国づくり人づくりに果たす教育の役割」 〈コーディネーター〉 山形大学副学長 安田弘法 〈パネリスト〉 ・地域づくりの実践者 帯谷伸一 (栃東北ハム 代表取締役) ・山形県教育委員会委員長 長南博昭 ・東北公益文科大学教授 國眼真理子 ・東北公益文科大学3年 寛野水希 ・鶴岡工業高等学校2年 武田悠 ・遊佐高等学校3年 渡会祐也
15:50	閉会

主催：山形大学 山形県教育委員会 共催：東北公益文科大学

お問い合わせ先

〒990-8560 山形市小白川町1丁目4-12 山形大学渉外部渉外課(社会連携担当)

Tel.023-628-4015 Fax.023-628-4849 E-mail yamadaikouryu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

山形県民シンポジウム in 庄内 〈参加申込書〉

お申し込みは、11月28日(木)までに**E-mail**または**FAX**でお願いします。
 なお、E-mailの場合は、下記の全項目を入力の上、送信願います。

E-mail yamadaikouryu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp **FAX** 023-628-4849 (渉外課あて)

氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			
氏名	ふりがな			年齢	代
職業(所属)	連絡先	電話			
		メール			

※個人情報本事業以外には使用しません。



会場

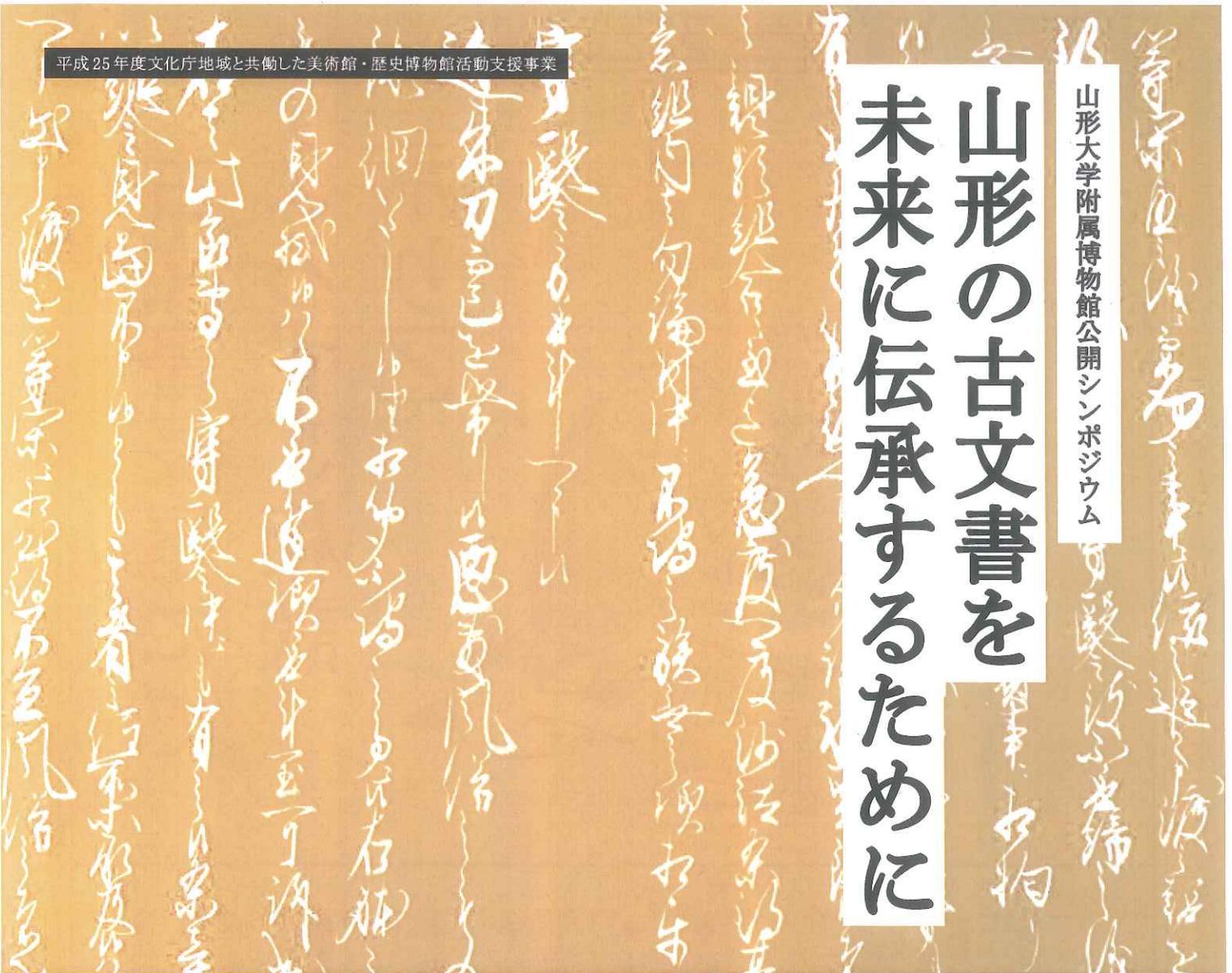
公益ホール

酒田市公益研修センター多目的ホール
 [東北公益文科大学酒田キャンパス内]

〒998-8589 酒田市飯森山三丁目5番地の1
 TEL.0234-41-1111

山形大学附属博物館公開シンポジウム

山形の古文書を 未来に伝承するために



2013年11月30日(土) 10:00~12:15

参加費 無料 事前申込 不要

場所=山形大学小白川キャンパス 基盤教育院2号館 221教室

自分たちの生まれ育った地域の歴史や文化を、後世まで確実に伝えていくために「古文書」の確かな保存・管理・調査は欠くべからざるものです。このシンポジウムでは「古文書を未来に伝承するため」の現状と課題、求められている保存・管理術などについて考えていきます。

◆第1部 10:00~11:30

シンポジウム 山形の古文書を未来に伝承するために

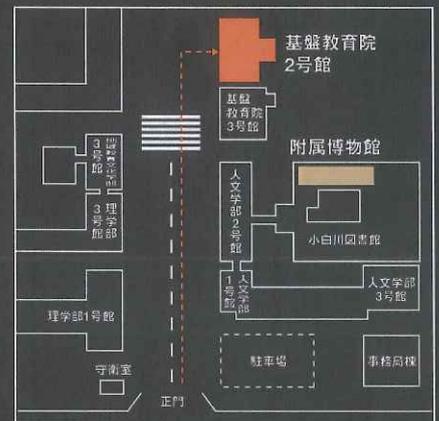
コーディネーター | 三上喜孝(山形大学准教授・附属博物館学芸研究員)

パネリスト

- 横山昭男(山形大学名誉教授・山形県文化財保護協会会長)
- 佐藤継雄(元山辺町史編纂委員)
- 森谷圓人(プロジェクト専門調査員・東北大学大学院専門研究員)
- 横山隆則(山形市下宝沢区長)
- 高橋望(山形大学大学院生)

◆第2部 11:45~12:15

質疑応答・パネリストと一般参加者による討論



古文書長屋にて よろずご相談 承り☑。



長屋の住人が井戸端に集まり、四方山話に花を咲かせる……そんなひとときにしたいと願っています。定員・申込み手続きなど一切ご無用。毎週火曜日の午後から、長屋の相談役が皆様からの「古文書に関するよろず相談」を承ります。常駐相談役の手に余る時は大学の関係教員が助太刀いたします。

◆ 家に残る古文書を自分で整理してみたい
◆ 家にある古文書を家族に負担をかけず
保存していききたい

◆ 古文書解読の学習方法について知りたい

◆ 地域史に興味があるので勉強したい

その他

そんな方々、是非お気軽にお越しください。

【日時】十一月より毎週火曜日 十三時～十六時

【場所】山形大学附属博物館

(山形大学小白川キャンパス 小白川図書館三階)

【問合せ】千九〇一八五六〇 山形市小白川町一丁目四の十二

電話 〇三二六二八四九三〇

E-MAIL hakukan@jm.kj.yamagata-u.ac.jp